

「2024年 北海道花紀行」

4. 旭川空港から帰宅

令和6年（2024年）8月2日（金） 晴 旭川空港から羽田へ・帰宅

今日は旭川空港から14時30分発の飛行機に乗って羽田へ飛び、家へ帰る。

飛行機に乗るまで何もすることが無いので、ゆっくりと起床し、8時過ぎに1Fのレストランへ行って朝食を摂った。ビジネスホテルの朝食はどこもバイキング。昨夜は結構宿泊客がいたようで、レストランは客で一杯だった。

私は今朝は和食で揃えた。



きょうは12時過ぎにはバジェットレンタカーへ行って車を返して。空港まで送ってもらわなければならない。それまで何をしようか。

すぐ近くだから、お決まりの美瑛へ行って花でも見てこようか。

9時過ぎにホテルをチェックアウトして美瑛へ向かった。天気は良好、日差しが暑い。道はすいていて快適なドライブだ。車を返却す前にガソリンを満タンにしておかなければならない。ガソリンスタンドを探しながら走ったが、何処にもない。

時間つぶしにと考えていた美瑛の「セレブの丘」の前を通過して、とうとう美瑛の町まで来てしまった。

町のスタンドでガソリンを満タンにして引き返し、「セレブの丘」へ10時前に到着した。

平日で朝早いからか、駐車場に車はあまり止まっていない。（いつも満車に近いくらい車が止まっているのだが）

相変わらずきれいに花が植えられ、赤、黄、緑など色とりどりの眺めが素晴らしい。



隣の広大なそば畑一面を真っ白にして咲く
そばの花も素晴らしい。



ケン・メリの木

上の方へ歩いて行き展望棟
に登って、畑の真ん中に
ポツと立っている
「ケン・メリの木」を、
「今までに何回も眺めた景色だが、多分これが最後になるだろうな」
と思いながら懐かしく眺めた。



そばの花が満開

「セレブの丘」をのんびりと一周したが、ほかに時間つぶしになるような場所も無いので、少し休んでから旭川空港へ行くことにした。

ここからはすぐ近くにあるパジェットレンタカーへ行って車を返却したら、私一人なのにすぐ空港まで送ってくれたので、空港に12時前に着いてしまった。

14時30分の出発まで2時間以上もある。さてこれからどうやって時間を潰そうか。

まずフードコートへ行って昼飯を食おう。結構いろいろな店があって目移りしたが、酢豚ならぬ酢鶏定食が旨そうだったので、飛行場側のテーブルに座って飛行機の発着を見ながらそれを食べた。



酢鶏定食



次はお土産コーナーへ行ってお土産探し。千歳空港と違ってここはローカルな国内線空港なので、お土産コーナーといっても、数軒のお土産店があるだけ。身内のみに簡単なお土産を購入し、時間つぶしに飛行機の発着でも見ていようと思って展望フロアへ行ったが、なんと、飛行機は出払っていて一機も見えない。当然飛行機の発着も無い。寂しい空港だ。

仕方ない、チェックインして出発ロビーに入り、私の乗る予定の、
14時30分発のANA機の到着を待った。

こういうローカル空港は、飛行機は到着便がそのままトンボ返りで引き返すということをはじめで知った。要するに待機の飛行機などと云うものは無い。
時間が来ないと飛行場には飛行機が一機も見えないというわけだ。

おまけに予定の飛行機は到着が30分近くも遅れてやってきて、多くの客を下ろした。

当然 出発も30分近く遅くなった。こんなことで整備する時間があるのか心配だ。

ちゃんと無事に羽田まで飛んでくれるのだろうか？



帰りの燃料を翼に給油している作業を見ながら、搭乗時間が来るまで心配しながら待った。

小型タンクローリー1台分の燃料をかなりの時間をかけて給油した。

「こんなに燃料を使うのか！ 翼のここにこうやって給油するのか」 初めて見て大変勉強になった。

15時前、心配をよそにANA4784便（実はADO機だった）は晴天の旭川空港を飛び立った。私の7G席は窓側だが、厳しい日差しが射しこむので、ずっとブラインドを下ろしたままで、外の景色は見えなかった。機内は満席、私の隣は、終始無言の感じの悪い中年の男性で、羽田までの時間が長く感じた。17時前無事晴天猛暑の羽田空港に到着した。

到着ロビーで、厚木行のバスを探したら、すぐに17時15分発のバスに乗れた。

ちょうど午後のラッシュアワーだったので、道は大渋滞。

19時近くになったが、何事も無く無事我が家へ帰宅した。

これで今年の「北海道花旅」がめでたく無事終了した。

さらに、車をやめたこともあり、「北海道花旅」は今年で終わることとなった。

17年間にわたる長い旅だったが、思い出多く、実りの多い人生の一時期だった。